

労山愛知

愛知県勤労者山岳連盟機関紙

2019年7月25日発行

No. 560号 (第51期 5号)

〒454-0055

名古屋市中川区十番町 2-8

栄和産業(株)ビル 2F

TEL/FAX 052-654-1411

<http://aichirousan.web.fc2.com/>

確保技術講習会を行いました



机上講習を6月10日(月)19:30~21:30 県連事務所で開催しました。参加者は39名(じねんじょ6、くらら8、あつた7、かわせみ4、半田3、若駒1、東海1、ふわく2、東三河6、同志会1)。三宅講師(じねんじょ山の会)から、パワーポイントを使ってクライミング用具の特性・使用上の注意点等、多岐にわたる解説と、危険を予測することの重要性についてお話がありました。今回、実技日程が変更になったため参加できなくなった受講生があり、ご迷惑をかけました。日程変更の通知は事前に流してあったとはいえ行きわたっていなかったようで、連絡方法に課題を残しました。(次項につづく)

《目次》	確保技術講習会を行いました	1
	会員拡大「プラス・1」の取り組みを日常的に追求しよう	2
	地方連盟理事長・組織担当者会議 報告	2
	第2回全国救助技術交流集會に参加してきました。	4
遭対部	6/7、第2回遭難対策担当者会議を開きました	4
〃	無雪期救助訓練、救急救命法講習会 報告	5
〃	7/12、夏山合宿遭対連絡会議を開きました	7
自然保護部部	鈴鹿山系清掃登山報告／ハルザキヤマガラスン駆除	8
教育部	6/20(木) 第4回教育担当者会議を開きました	9
組織部	6/20(木) 第5回 組織担当者会議 報告	10
女性部	女性部便り	11
	カレンダー	12

(前項からのつづき) 実技講習は6月30日(日) 大津市比良げんき村人工登攀壁で開催。講師・スタッフ12名(半田1、東三河1、あつた3、じねんじょ7)、県連遭対部1名、受講生20名(じねんじょ2、かわせみ4、若駒1、半田2、東三河4、くらら6、あつた1)の合計33名で実施しました。8:50 実技開始。はじめに今回の訓練の意義、全体の流れの説明・注意があり、①確保操作(タイヤ落とし)。②ビレイ状態からの自己脱出。③懸垂下降。④宙づり状態からの登り返しの4部門を5つに分けたグループが順に訓練し、まとめの講話・片付け後、16:30に終了、解散しました。

時折、雨も混じり、特に雨よけのない場所でのタイヤ落としの担当者・受講者は濡れてしまい大変でした。このタイヤ落としではロードセルを使い、荷重の大きさ、変化を測定。受講生の関心もこのタイヤ落としが一番高いようで、何度もトライする光景がみられました。受講生の人数に比べ、スタッフが多く、数回繰り返して訓練ができ、充実した講習だったので次回も参加したいとの感想を受講生からもりました。

会員拡大「プラス・1」の取り組みを日常的に追求しよう

理事長 佐藤和男

6月29日(土)から30日(日)にかけて全国理事長・組織担当者会議に出席してきました。この会議の目的は、全国的に会員数が2018年11月申請では、1万8802名になり、これ以上の後退を何としても食い止めるため、地方連盟の経験を学び共有化して、会員数を回復し増やしていくために行われました。地方連盟で会員を増やしているところでは登山教室の開催、山で会った登山者に山岳会の名刺を渡すことなど独自の取り組みをしています。

愛知県連も過去には1400名の連盟員がいましたが、徐々に減少して1000名を割り930名迄減っています。この状況から脱するためには県連盟全体で取り組むことが必要だと思います。

なぜ会員を増やさなければならないのか?いつも問われる問題ですが、山岳会の目的の一つに山岳事故を無くすという目的があります。毎年増える事故を無くするために、山各会に入っていない一般の登山者への安全登山の啓蒙、組織をすることが大切だと思います。多くの登山者を組織して安全で楽しい登山を普及したいと思います。

愛知県連の山岳会の中でも会員拡大に力を注ぎ、登山教室などを毎年開催して会員拡大、事故防止に取り組んでいる山岳会がいくつもあります。それらの経験に学び、「プラス・ワン」活動で各会の力を結集して意識的に取り組んでいきましょう。

地方連盟理事長・組織担当者会議 報告

6月29-30日地方連盟理事長・組織担当者会議に、佐藤理事長、吉川事務局長の2名が参加してきました。

理事長 挨拶

会議では、冒頭、浦添理事長の挨拶がありました。挨拶では労山が「創立されてから今日まで、労山の先輩たちが、登山愛好者の安全や技術の向上のために、登山愛好者を組織し、労山組織を大きくしていくために、どのような努力を重ねてきたのか、先人たちが取り組んできたものを学んで行くことが必要」であること、「今日、登山の多様性に対応し、若者が求めている要求に応じていくことも必要」との表明がありました。

また「全国労山を考えるには、歴史から学ぶことが大事」だとし、1)1960年から1963年の日本勤労者山岳連盟結成の経緯、2)「全国登山研究集会」の歴史、3)1974年の「労山遭難対策基金」発足の経緯、4)1978年「日本勤労者山岳連盟趣意書」決定の経緯、5)2002年「労山組織強化中

期構想・個人会員制度導入」制度の経緯、6) 2005年保険業法改悪による遭難対策基金運営の危機と、その対応・反対行動と、「労山基金制度」創設、7) 2006年「労山自然保護憲章」制定、8) 2012年労山「パートナーズ」発足と2017年の閉鎖、——など説明がありました。

現在、全国労山が取り組んでいる諸問題としては、1) 地方連盟からも全国理事の選出、2) 全国登山研究集会を2～3年に一回開催、3) 安全登山を目指す標準作り、4) 風水害の被災会員に対する見舞金制度の検討、5) 山筋ゴーゴー体操を全会員に普及、6) 労山基金を魅力あるものに改善 7) 2020年労山創設60周年記念事業、6) 季刊発行の労山ニュースの継続発行、——の説明がありました。

基調報告

全国連盟からの基調報告では、2018年末の組織数では598団体、18,802名となり、前年比5団体227名の会員減となっている。労山規約での労山の目的は「登山ハイキングは健康で文化的な生活のひとつであり、平和で民主的な国民生活に根ざしたスポーツ・レクリエーションとして、普及し発展させる」とし「広範な登山者の組織化」であるとしています。

会議の目的として「仲間を増やし組織強化に向けた方針提起と地方連盟・会クラブの組織運営や仲間を増やす活動の実践を交流し、各地方連盟での会員拡大の取り組み」「仲間を増やし労山組織拡大を大きく進める場とする。」とされました。

登山層としては「全国には大都市地域での10代後半～20代後半の若い世代も積極的に山行を行っており、未組織登山者・労山会員対象者がいるということを示している。「2009年と2018年の高校山岳部員数を比較すると、10年間で6,973から11,962人と1.73倍に増えて」いて「登山ハイキング層が、皆無というわけではない。」とし会員拡大の可能性を示され、労山会員拡大を最高時の2万4千人まで回復させることを目標に、次の行動提起がされました。

1) **労山理念学習で労山の必要性を理解する活動を全会員に。**「趣意書」は①権利としての登山、②登山の多様な発展、③海外登山の普及、④遭難事故の防止、⑤自然を守る活動——という「登山者にとって基本となる問題、登山を行うための理念ともいえる諸問題について、具体的に示したものであり、「まずは、地方連盟役員から、なぜ労山か、労山が必要なのか、労山趣意書を基本に学習を進める。

2) **すべての登山愛好者を迎え入れる、楽しい会活動を進める。**

3) **すべての会が、山を楽しむ会員を増やす目標を持つ**

4) **地域の登山教室・講座の開催をすすめ会員拡大につなげる！**

5) **ホームページの開設をすすめ会員拡大につなげる！**

6) **新人フォローアップを徹底、とにかく楽しい会活動をめざす**

「人は毎年、年齢を重ねていくもので、会の役員構成や山行の志向や取り組みは年々変化し、会の存続にも影響を与えることになる。」「このことを連盟内の、——会クラブ役員にも理解を広げる取り組みを進め」「仲間を増やす取り組みを、会活動の一環としてすすめることが、必要である——」として、⑦会員の意見をよく聞き、会活動に反映させ、楽しい山行、楽しい会、安全登山教育や遭難事故防止活動のできる、会・クラブ作りをめざす。⑨既存会員が高齢を理由に退会しないよう、高齢会員も参加し易い、寺社巡り、など多岐にわたる活動改善を進める。——など9項目の行動提起がありました。

7) **「登山時報」を機関誌として会員拡大に活用をめざす**

8) **多様な登山活動の発展を各地で推進する**

9) **遭難事故防止の活動と教育活動の推進——概要、以上の基調報告があり、**

29日には北海道道央地区連盟から10年間で86名会員増加とさっぽろ山遊会など3山岳会の活動報告、愛知県連から一般登山講座と会員拡大の取り組みと同志会の活動報告などの他、計6地方連盟からの報告がありました。(基調報告などは各会に配信予定です。)

30日には各地方連盟からの発言と質疑応答・討議で2日間の会議を終えました。

基調報告については、会員拡大について一般の登山者などが山岳会などに入会するにあたって、

その人たちの立場に立った会員拡大について踏み込んだ内容が求められていると感じました。

地方連盟理事長・組織担当者会議に参加して

理事長 佐藤 和男

2019年6月29日13時から30日12時にかけて全国連盟の事務所で開催されました。全国労山が2001年に24,000名近くの組織から15年に20,000名を割り18年11月申請で18,802名まで減少した中で、各地方連盟の活動報告を聞く中で、労山の趣意書に書かれていることが言葉としては古い表現の部分がありますが、まだ今でも達成されていないところがあるのではと思いました。なぜ、会員を増やさなければならないか？組織が小さくなるということとはどういうことなのか？全国労山の様々な運動の取り組みへの影響力の低下があるのではと思いました。この会議に参加して、組織拡大の取り組みをどう実践していくのが大切なことと思いました。

5月25・26日／於：新潟県新発田市

第2回全国救助技術交流集會に参加してきました。

2019年5月25日、26日の二日間、新潟県連の主幹による「第2回全国救助技術交流集會」が新発田市で開かれました。今回のテーマは、「遭難現場へのアクセスと止血方法をはじめとした応急手当を中心に、全ての労山会員が参加できる安全登山への心得について、講習と交流をしたい」ということで、参加者は約80名、愛知県連盟からは清水美帆（あつた）、三島由久（じねんじょ）、洞井孝雄（半田F）の三名が参加しました。

初日は、①遭難現場へのアクセスとしての、ロープを使っての登り返し（希望者によるタイム・トライアルもおこなわれました）、②回復体位、止血、簡易な医療資材の三点をポイントとした応急手当、③積雪期の鹿島槍、利尻岳における事故事例報告、の三点が中心になりました。①の登り返しは愛知でも登山学校の「自己脱出」の技術と同じです。②の応急手当ても日常的に私たちが行っていることと同様ですが、「正しいことをやろうとして、手が出せないというのではなく、間違ったことをしないところまで手を出していくことが大切」だという視点が強調されました。③の事故事例報告では、利尻岳で雪庇が崩れて落下した際に、確保していたロープがクロスして摩擦によって切断した、という事例が教訓的でした。

二日目は、希望により、会場近くの杉滝岩という岩場と体育館とに分かれ、懸垂下降におけるバックアップ技術の学習と登攀、石田良恵さんによる「山筋ゴーゴー体操」の直接指導が行われ、昼過ぎに解散しました。昨年、「ロープを利用するすべての労山会員が参加できる形のセルフレスキュー中心の集會」として開くようにした、という集會でしたが、各地方連盟からの参加者にも温度差や格差があり、中途半端な印象をぬぐえない集會だったように感じながら帰ってきました。（文責：洞井孝雄）

遭対部 6/7、第2回遭難対策担当者會議を開きました

2019年6月7日（金）19：30から県連事務所で第2回遭難対策担当者會議を開き、13山岳会から13名の担当者が出席しました。【出席者】加藤（ちんぐるま）、西尾（くらら）、樋江井（若駒）、佐藤（かわせみ）、鷺見（スルジェ）、春日井（みどり）、佐村（ASC）、室岡（じねんじょ）、松本（東三河）、河村（春日井峠）、竹田（あつた）、洞井（半田F）、望月（ふわく）。

1、事故報告 3件

No.1 クライミング中グランドホールし足首骨折

No.3 クライミング中の事故

No.5 フリークライミングで、墜落

※詳細報告は、次号になります。

2、夏山合宿前のトレーニングと位置づけ、講習会（訓練）を一つひとつ成功させよう。

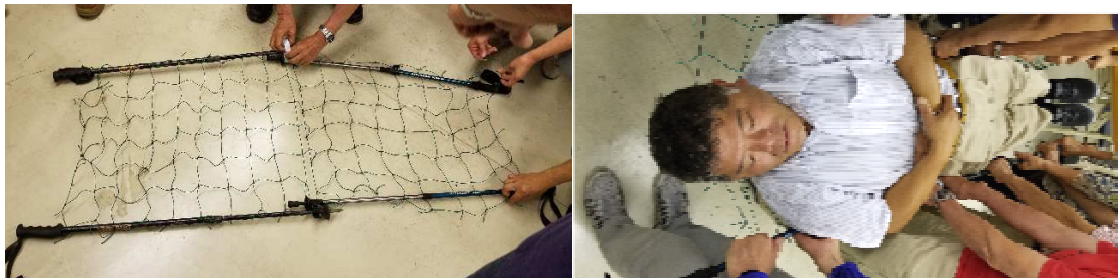
①確保技術講習会 ②無雪期救助訓練 ③救命救急法講習会（略）。

3、全国救助技術交流集会（5/25～26）の報告（別掲）

4、救助隊要員の登録を夏山合宿前に終わろう。

5、「搬送ネット」の実演を兼ねて説明。

京都府連から情報を寄せてもらいました。最初鹿除けようネット（鹿ネット）から、園芸用ネット（搬送ネット）へ進化したようです。幅80cm、長さ200cm。ネットのひもはできるだけ太い方がいい。網目はストックが入る大きさと四角が使いやすい。体重は100kgまで大丈夫。ストック4～6本、4人で運ぶときは4本、6人の場合は6本。ストックの長さがネットの長さに合うよう調整する。背中があたるところにザックを置いておくと、事故者の背中にザックが食い込まない。



6/17、第51期無雪期救助訓練机上講座を開きました

2019年6月17日（月）19:30～県連事務所で、無雪期救助訓練机上講座を開き、9山岳会31名が参加しました。【参加山岳会及び人数】あつた3、かわせみ4、じねんじょ9、同志会1、半田F6、東三河1、ふわく1、くらら4、若駒1、清水美帆講師（あつた・県連登山学校コーチ）。

講義は、まず、救助訓練って、一体何なの？なぜ救助訓練に参加したのか？なぜ救助訓練を行うのか？そもそも救助訓練とは何か？必要か？実際に効果はあるのか？から入りました。

それから、「訓練とは？あることを教え、継続的に練習させ、体得させること」であり、「山で事故が自分の目の前で起こったら」その時、あなたはどう動く？～と本番を想定して練習することが今回の救助訓練の目的である。

事故対応に絶対なものがあるとするならば、相手を想い、周りを想い、冷静に判断するだけではないか。

「正常性バイアス」－「自分だけは大丈夫だろうという根拠のない思い込み」のことです。その対処法は「こういう場合には、たとえ何があってもこうするのだ」という行動方針を立てておくこと。

「危機に対する人の対応・行動心理」として以下5点が強調されました。

- ① 凍り付き症候群一人の危険認知はすぐには働かない。
- ② 正常性バイアス ー（略）
- ③ 経験の逆機能ー過去はこれで大丈夫だった
- ④ 同調性バイアス ー皆がこうしているから私も大丈夫
- ⑤ エキスパートエラー ー専門家がこういっているから大丈夫

上記、心理に打ち勝つには訓練を重ねる、行動基準を決めておく、仲間への声掛け（訓練の根拠）。

- ・「搬送ネット」の説明（略）
- ・ココヘリの説明（略）

6/22、第51期 救命救急法講習会を開きました

2019年6月22日（土）10：00から県連事務所で救命救急法講習会を開き、10山岳会39名、一般登山講座から3名が参加し合計42名、講師は、森会長（東三河）でした。

・まず、普段日帰り山行で持っていくもの、その中で何ができるか考えるとして、東三河の事故事例3件を説明、県連の「事故事例集」の活用を強調しました。

市民が行う緊急避難行為としての救急蘇生法は、後で「法的に責任を問われることは無い」とされています。

・事故発生—「まず、落ち着け」「安全確認」

傷病者を評価、傷病者への対応（①目を開けている、②呼びかけで目を開ける、③目を開けない）、ショック状態の判断、活動性出血、救助要請—救助は時間との勝負

・SSS+ABCDE

SAFETY/SCENE	安全・状況確認
SPINE	頸椎保護
AIRWAY	気道の確認
BREATHING	呼吸の確認
CIRCULATION	循環
DISABILITY	意識状態、生死にかかわる異常
EXPOSURE	環境

※ここで6名ずつ班に分かれて実技を展開

山での目標は、できるだけ悪化させないこと。ゴール設定は素早く、救助要請は迷ったら行う。

脊髄運動制限

○処置・実技

①脊髄確保 ②気道確保 ③CPR（実技は、消防・日赤等での講習で） ④止血 ⑤体位

○夏山でよく起こる傷病について

・熱中症について※「行動中」の脱水（ml）＝体重（kg）×行動時間（h）×5

軽傷—熱痙攣。足がつる。自力移動可能。

中等症—熱失神、熱疲労。立ち眩み、めまい、吐き気、頭、意識は正常。30分以内に改善傾向なし、2時間以内に完全回復しない、日没が近い、の一つでも当てはまれば救助要請。

重症—意識が正常でない、体温39度以上、歩行、動作がきちんとできない。至急、救助要請。

・高山病—1500m超えると可能性あり。症状のなかった標高以下まで下山。高山病の裏には脱水が潜んでいる。

・低体温症—脳や内臓（深部体温）が35℃以下になった状態である。予防と処置。

体温を下げない4箇条＝食べる、隔離、保温、加温。

○RICE処置とは？

①R=REST 安静、 ②I=ICE 冷却、 ③C=COMPRESSION 圧迫、 ④E=ELEVATION 挙上。

実技として、手首の骨折、足首の捻挫、頭部のケガの三角巾を使った手当

蜂刺されによるアナフィラキシーショックについて。対応策はエピペンしかないということ。

メンバーの持病薬については、パーティで共有すること。（例）ニトロ、インシュリン等

7/12、夏山合宿遭対連絡会議を開きました

2019年7月12日（金）19：30から、第51期夏山合宿遭対連絡会議を開き、7山岳会16名が出席しました。【出席者】西尾・吉田則・吉田剛（くらら）、樋江井（若駒）、榊原・洞井（半田F）、後藤・松本（東三河）青山・高藤・塚田・渡辺・小出・園部（同志会）、伊藤（じねんじょ）、望月（ふわく）。

当日提出された山行計画書は、5山岳会17件（翌日、名古屋ありんこ山岳会から1通届きました）。

○合宿を取り組む山岳会から、報告を受け問題点の指摘や質問など議論しました。主な点を掲載します。

- ・周回コースは、万一のばあい、どこで引き返すかあらかじめ考えておくこと。
- ・雷警報器を持参する。
- ・10名を2パーティにする計画で、共同装備で燃料、コンロ・ブス板、コップ各Iと細引き8mmX20m1本を予定していたが、2パーティならコンロ等をもう1組とロープも、もう1本は50mを持って行った方がいいと指摘があった。
- ・よく事故がある白出沢がどういう状態だったか、報告してほしい。
- ・北アの西穂高～奥穂高岳縦走のパーティで、アイゼン・ピッケルは出発直前に山小屋に確認すると報告があった。しかし、共同装備で燃料（ガス）をもっていかない計画に対し、持って行った方がいいと指摘があった。
- ・北ア、五竜・鹿島槍・爺ヶ岳の縦走で、ザイルなしの計画に対し、ザイル30m I本を持って行った方がいいと指摘があった。
- ・エスケープルートで、往路を戻るとあった。どこで判断するかと指摘があった。
- ・軽量化のため、シュラフをやめシュラフカバーにした。

○全体として

- ・安全対策がきっちり書かれていた。
- ・8月30日（金）19：30からの夏山合宿遭対報告会議に無事故で元気な姿でお会いしましょう。

第51期夏山合宿提出一覧

山岳会		山域	コース	日程	人数
じねんじょ山の会	A	北ア	一ノ沢登山口～常念小屋～常念岳～蝶ヶ岳～まめうち平～三俣	7/27～28	19
	E	北ア	一ノ沢登山口～常念小屋～常念岳 往復	7/27～28	3
名古屋山岳同志会	A	南ア	広河原～大樺沢二俣～北岳～農鳥岳～奈良田	8/10～13	9
	B	北ア	室堂～雷鳥沢～剣御前小屋～別山～雄山～一ノ越山荘～雷鳥沢～室堂	8/10～13	5
	D	北ア	アルプス平～遠見尾根～五竜岳～鹿島槍ヶ岳～爺ヶ岳～種池山荘～扇沢	8/4～6	4
	E	北ア	八方池山荘～唐松岳～五竜岳～鹿島槍ヶ岳～爺ヶ岳～種池山荘～扇沢	8/11～13	10
	F	南ア	広河原～大樺沢二俣～北岳～D沢～バットレス～北岳～農鳥岳～奈良田	8/9～13	4
半田ファミリー山の会		北ア	新穂高～槍平小屋～槍ヶ岳～南岳～北穂高岳～奥穂高岳～白出沢～新穂高	8/2～4	10
東三河山ぽ会	B	北ア	新穂高～西穂山荘～西穂高岳～ジャンダルム～	7/26～30	8

			奥穂高岳～白出沢～新穂高		
	C	北ア	北新穂高～西穂山荘～西穂高岳 往復	7/27~28	4
	E	北ア	上高地～横尾～槍沢～槍ヶ岳～南岳～北穂高～涸沢～パノラマコース～徳沢～上高地	8/1~4	5
	F	北ア	猿倉～鍮温泉小屋～鍮ヶ岳～白馬岳～猿倉	8/1~4	6
	G	北ア	高瀬ダム～烏帽子岳～野口五郎岳～鷲羽岳～双六岳～鏡平～新穂高	8/11~14	3
	H	北ア	アルプス平～遠見尾根～五竜岳～鹿島槍ヶ岳～爺ヶ岳～種池山荘～扇沢	8/12~15	5
山の会くらら	A	中ア	伊那ダムP～越百山～仙涯嶺～南駒ヶ岳～空木岳～伊那ダムP	7/20~22	6
	B	八ツ	船山十字路～西岳～青年小屋～権現岳～赤岳～硫黄岳～赤岳鉱泉～阿弥陀岳～御小屋山～船山十字路	8/2~4	10
	C	八ツ	美濃戸口～美濃戸～赤岳鉱泉～硫黄岳～赤岳～阿弥陀岳～行者小屋～美濃戸～美濃戸口	8/4~6	8

自然保護部 鈴鹿山系清掃登山報告

第47回鈴鹿山系清掃登山への多数の参加の呼びかけ、ありがとうございました。お疲れさまでした。前回の労山愛知「第559号」において簡単に報告をしましたが、今回は各会の参加状況・回収したゴミの量を一覧表としたものを掲載します。昨年と同様に20山岳会の参加、参加人数は会員385名となり、前回の369名より4%弱の伸びでした。来期も参加者が少しでも増えるように工夫したいと思います。ゴミの量は、前回の79.9Kgに対して83.4Kgで少し増えました。これは、御在所岳の不燃ゴミが増えた為です。登山者による物ではなく、一般家庭から出た生活ゴミ、また、各登山口にある駐車場から回収したゴミによるものでした。これらに関しては、地元自治体に申し入れを行いました。今回のゴミで目に疑ったものがアルミ缶の多さで特にアルコール飲料の物が目立ちました。これらは、殆どが観光バスの立ち寄れる駐車場からの回収です。このことも自治体に連絡をしました。

清掃登山はゴミを拾うだけではなく、清掃登山を通じて我々が普段登っている山々に感謝、自然の尊さを再認識することだと思います。

今回の清掃登山においていい話がありました。清掃登山と関係のない一般の登山者が、下山途中でケガ（骨折）をされ、それに対して山岳会の方が応急処置を施し登山口まで搬送し待機していた消防救急隊に引渡しました。後日、その登山者より感謝の電話をいただいたとの事。迅速な対応をしていただきました山岳会の方に、ありがとうございました。

第47回鈴鹿山系清掃登山集計表 (色付の行は藤原岳を示す。)

山岳会名	山城		参加人数			ゴミ	
	御在所岳	藤原岳	総人数	内訳		可燃	不燃
				会員	一般		
あつた勤労者山岳会	○		26	24	2	1.5	0.7
アリス山の会	○		6	6		0.2	
犬山勤労者山の会マップ		○	9	9			0.5
おやこの会	○		6	1	5		

春日井峠の会		○	23	16	7	0.2	1
かわせみ山楽会	○		6	6		1	3
じねんじょ山の会	○		20	20		1.4	2.8
スルジェ山の会	○		23	17	6	1.5	5
ちんぐるま	○						
東海山岳会	○		17	17		1.3	6.2
名古屋ありんこ山岳会		○	17	16	1	0.5	4
名古屋ASC	○		6	6		0.2	0.4
名古屋山岳同志会	○		36	36		1.6	5.2
名古屋山ぼ会	○		4	4		0.5	1.8
半田ファミリー山の会	○		61	27	34	1.3	2
東三河山ぼ会	○		32	32		1.6	2.8
低い山を楽しむ会	○		2	2		0.1	2
ふわく山の会1	○		76	76		3.6	2.6
ふわく山の会2		○	8	8		0.5	0.2
みどり山の会	○		12	12		1.2	0.2
山の会くらら	○		45	44	1	9.5	13.5
若駒山岳会	○		7	6	1		
計			442	385	57	27.7	53.9
三重山好会	○		23				
一般参加者	○		2			0.8	1
一般賛同者	○		118				
計			143			0.8	1
総合計			585			28.5	54.9

ハルザキヤマガラシ駆除作業

今期は、5月19日、6月16日の2回実施予定でしたが両日とも天候に阻まれ中止となりました。清掃登山の日に3山岳会が少しだけですが駆除を実施しました。今後は、梅雨が明けたてから駆除をしたく考えております。

教育部 6/20(木) 第4回教育担当者会議を開きました

日時：6月20日(木) 19時30分～

参加者：半田F(新海)、くらら(吉田)、あつた(谷本)、ありんこ(榊原)

計 4山岳会 4名

(1) 氷雪技術講習会の講師分担について

- ・ 県連に結集している各山岳会が知恵と労力を出し合いながら、みんなで企画した行事を成功させていくことが本来の県連活動のあり方だという 51 期総会議案記述のとおり、講座講師・実技講師等を分担し実施していくこととし、具体的には 50 期分担した山岳会が 51 期も担当することとしました。ただし、50 期に複数講座を担当した山岳会があり、その部分については新たに講師担当を依頼することとしました。

(2) 氷雪技術講習会の一般参加者用の実施要領（案）について

- ・ 一般の方も氷雪技術講習会を受講可（講座のみ）とするように理事会へ提案しています。理事会での結論を待っていますが、10 月講習会実施にむけ、先行して一般参加者への呼びかけポスター等を作成することとしました。

(3) 教育活動の交流について

- ・ 「事故発生時の事故者を安全な場所へ移動させる方法や事故者滑落・転落時の各会のやり方の交流」をしました。
遭対担当者会議で紹介された京都府連の「園芸用ネットを使用した搬送方法」の実演紹介及び事故者引き上げ時の支点のストッパーの作り方の実演交流をしました。

次回、第 5 回教育担当者会議を 2019 年 7 月 18 日（木）に 19 時 30 分より開きますので、各山岳会・コーチ会議から奮って参加をお願いします。

組織部 **6/20（木）** **第5回 組織担当者会議 報告**

県連事務所：午後 7 時～ [出席者] あつた（森田）、アリス（大石）、春日井（弘中）、かわせみ（神谷）、くらら（山本）、同志会（吉川・吉田）、 計 6 山岳会 7 名

1) 一般登山講座の反省と次年度の準備

- ①公開講座——6 月 8 日（土）——労山愛知第 559 号に報告済。
- ②今年度の反省と次年度の準備——今回出された意見。（順不同）
 - * 実技山行に一般会員の参加は可とし、前年度の受講者は加盟山岳会の受け入れで参加可とする。
 - * 自然科学や医療系など、専門家に積極的に依頼する。
 - * 内容は「ハイキング ABC」に留まらず、各会の持てる力量・知識などは最大限に活用する。
 - * 日程は、組織担当者がそれぞれの山に入れるように、全体の日程を長く取り、間に山行の日程を確保する。
 - * 実技山行の間の各会の山行に誘い、会員拡大に結び付けるようにする。
 - * 実行委員会形式として、担当者会議と日程を別建てとする。役割分担を広げる。
 - * 組織部の交流山行を秋に設定する。CL・SLの研修と育成。
 - * YAMA P に問合せ 1 件あり、もっと活用する。
 - * 実技山行の代替日程は予め設定しておく。
 - * 次年度計画は代表者会議を目途に公表できるように準備する。
 - * ザイルワークは実演だけでも実技山行に取り入れるようにする。

④アンケートの集計——（理事会に報告済）

⑤会計報告——（理事会に報告済）

2) 会員拡大の取組み・対策——昨年会員を拡大している、減らしている会、その他、見学予定。 ふわく山の会——30 年史資料を配布し、以前のふわくの会員拡大を知る資料とした。

〔会員拡大について出された意見・報告〕

- * 県連として魅力ある活動をアピールできる取り組みをやって欲しい。
- * 会のHPをリニューアルしたり、写真を更新すると反応が良くなった。
- * あつたでは、名刺(カード)を作って山行の時に配り、会をPRしている。
- * 県連総会の拡大目標に対して各会がどのように目標を持ち、どう取り組むか議論すべき。

〔担当者会議で、ふわくの現状について出された意見。〕

- * 集計担当より、何故急速に組織人員が減ったのか原因を問い合わせても回答がない。
- * ふわく山の会に対しては、全員労山に加入してください、と言うべきである。
- * 遭対関係の訓練に参加している会員は全員労山加入の会員なのか？
——全員、労山会員である。
- * 大きな会の連盟費納入の規定を、例えば半数は納入するように変えるべきではないか。
- * 一山岳会の問題に止まらないので、理事会として対応してほしい。
- * ふわくからの説明がその場しのぎで、問題を先延ばししてきたことにより、現在に至っている。

女性部 女性部便り

6月15日(土)13時から15時まで、講師に中津川勤労者山岳会の宮下征夫氏を迎えてワンコインセミナー「両膝のトラブルと向き合いながら目指す山」が県連事務所で講演会が行われました。一般の方を含めて9山岳会41名の参加でした。

講演内容は、山を始めて58年、高校2年の時から登山をしている。社会人山岳会を経て、1969年に中津川勤労者山岳会を25人で創立した。岩や雪山の縦走をしてレベルを上げてきた。厳しいトレーニングを積んでアルプス三大北壁をやり遂げた。ガイドとして、外国の山に登っている時にだんだん膝が悪くなった。2017年に山に登るために両膝を手術して懸命にリハビリと筋トレをした。大腿と下腿に筋肉を鍛えること、膝に負担がかからないように自分でコントロールして、絶対無理をせず膝を長持ちさせたいと話された。6月モンブランの頂上に立つ予定とか。

質疑応答の中では、創立50年になる中津川勤労者山岳会についても話された。50年事故がなかったのは誇りである。山に行くだけが山岳会ではないとして、恵那山の縦走路の草刈りや頂上の小屋の管理、トイレの紙の始末などをやっているそうだ。それらを会の活動として位置づけている。筋トレで身体を作ること、自然を守ること、仲間を守り合うことが大切である。また、ストックを使うと体力が落ちバランスが悪くなるので、登りでは使わず頼らないことが大事だと話された。

最後に、三大北壁に登った時の写真を見せて頂き、説明を聞いた。宮下氏の経験談を聞いて、膝痛予防のためには筋トレが必要なので、山筋ゴーゴー体操を地道に頑張ろうと思った。

(みどり山の会 二宮記)

7月4日(木)19時から県連事務所で5山岳会6名で女性のつどいを開催しました。

9月21・22日に行います交流山行下見の報告と当日のスケジュールについて検討を行いました。

【編集後記】今号が皆さんのお手元に届くころには、梅雨明け!となっているとよいのですが、今年は長引くようですね。労山愛知は今号も記事が盛りだくさんです。山に行けない日には是非じっくりと読んでみてください。(事務局 井土)

Schedule 2019

8月			9月			10月		
1	木		1	日		1	火	
2	金		2	月		2	水	
3	土		3	火		3	木	女性のつどい⑦
4	日		4	水	教育担当者会議⑥	4	金	
5	月		5	木	女性のつどい⑥	5	土	
6	火		6	金		6	日	
7	水		7	土	登山学校実技 C10	7	月	
8	木		8	日		8	火	
9	金		9	月		9	水	教育担当者会議⑦
10	土	第4回山の日記念全国集会	10	火	組織担当者会議⑥	10	木	理事会⑬
11	日	第4回山の日記念全国集会	11	水		11	金	
12	月		12	木	理事会⑪	12	土	
13	火		13	金	遭対担当者会議③	13	日	
14	水		14	土		14	月	
15	木		15	日		15	火	
16	金		16	月		16	水	
17	土		17	火		17	木	自然保護部会⑥
18	日	登山学校実技 M7C9	18	水	自然保護部会⑤	18	金	
19	月		19	木	理事会⑫	19	土	全国クライミング講習会
20	火		20	金		20	日	全国クライミング講習会
21	水		21	土		21	月	
22	木	自然保護部会④	22	日		22	火	
23	金		23	月		23	水	
24	土		24	火		24	木	
25	日		25	水		25	金	
26	月		26	木	代表者会議準備	26	土	
27	火		27	金		27	日	
28	水		28	土	全国ハイキング学校	28	月	氷雪技術講習理論①
29	木		29	日	各会代表者会議	29	火	
30	金	夏山合宿遭対報告会議	30	月		30	水	
31	土	理事会⑩				31	木	理事会⑭

ご意見、ご要望・投稿・写真などはメール、または県連事務所あてに郵送してください。

<http://aichirousan.web.fc2.com/> e-mail:aichirousan@gmail.com